

報道各位

2023年8月29日

公益財団法人石橋財団 アーティゾン美術館

ジャム・セッション 石橋財団コレクション×山口晃 ここへきて やむに止まれぬ サンサシオン

2023年9月9日[土] - 11月19日[日]

出品作品のタイトル等を更新しました。



山口晃《来迎圖》2015年、作家蔵、撮影：浅井謙介（NISSHA エフエイト株式会社）
©YAMAGUCHI Akira, Courtesy of Mizuma Art Gallery

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館（館長 石橋 寛）は、石橋財団コレクションと現代美術家の共演「ジャム・セッション」の第4弾として「ジャム・セッション 石橋財団コレクション×山口晃 ここへきて やむに止まれぬ サンサシオン」を開催します。

日本は近代を接続し損なっている、いわんや近代絵画をや。

写実絵画やアカデミズム絵画に対する反動としての、あるいはその本来性を取り戻すためのものが西欧の〈近代絵画〉であろう。が、写実絵画やアカデミズム絵画の歴史を持たぬ本邦に移入された近代絵画とはなんであろう。

西欧の近代絵画と日本の近代絵画を蔵する石橋財団コレクションを前にして、改めて、山口晃（1969-）はそう述べます。

今回のジャム・セッションでは、「近代」、「日本的コード」、「日本の本来性」とは何かを問い、歴史や美術といった個人を圧する制度のただ中であっても、それらに先立つ欲動を貫かんとする山口晃をご覧ください。

【見どころ】

1. 山口流セッション

日本の近代絵画に向き合いながらも、ジャム・セッションの対象として、山口が選んだのは雪舟《四季山水図》とセザンヌ《サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》です。雪舟に基づくインスタレーション、そして、セザンヌ理解に向けた自由研究にご期待ください。

2. 話題作の原画を初公開

2019年に放映されたNHK大河ドラマ「いだてん ～東京オリムピック噺～」のオープニングタイトルバック画となった《東京圖 1・0・4 輪之段》や、2021年7月に完成した東京メトロ日本橋駅のパブリックアート《日本橋南詰盛況乃圖》等、話題を呼んだ作品の原画を初めて公開します。

3. インスタレーション群を展開

山口の作品を見るにも、雪舟やセザンヌを見るにも、ましてや日本近代絵画を見るにも、私たちの視覚認知機能によるところがあります。今回は、その視覚認知機能を改めて意識すべく、山口の追体験的なインスタレーション群を展開します。



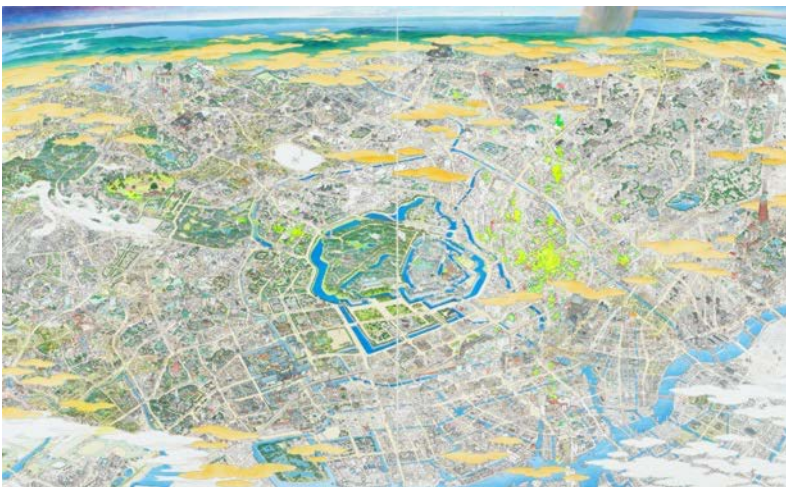
撮影：曾我部洋平

山口晃

1969年東京生まれ、群馬県桐生市に育つ。96年東京芸術大学大学院美術研究科絵画専攻（油画）修士課程修了。13年『ヘんな日本美術史』で第12回小林秀雄賞受賞。

日本の伝統的絵画の様式を用い、油絵という技法を使って描かれる作風が特徴。絵画、立体、漫画、インスタレーションなど表現方法は多岐にわたる。国内外での展示多数。東京メトロ日本橋駅のパブリックアート、東京2020パラリンピック公式アートポスターを制作。

【主な出品作品】

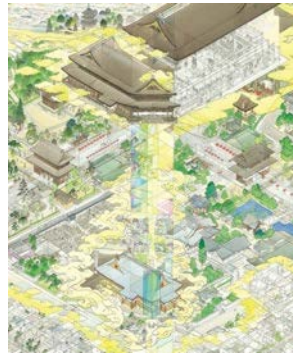


山口晃《東京圖 1・0・4 輪之段》2018-2023年、作家蔵
撮影：浅井謙介（NISSHA エフエイト株式会社）
©YAMAGUCHI Akira, Courtesy of Mizuma Art Gallery
右2点は部分図





山口晃《日本橋南詰盛況乃圖》2021年、作家蔵
 撮影：浅井謙介（NISSHA エフエイト株式会社）
 ©YAMAGUCHI Akira, Courtesy of Mizuma Art Gallery
 右下2点は部分図



山口晃《善光寺御開帳遠景圖》2022-2023年、
 善光寺、撮影：村山正俊
 ©YAMAGUCHI Akira,
 Courtesy of Mizuma Art Gallery
 右は部分図



山口晃《当世壁の落書き 五輪パラ輪》(部分) 2021年、作家蔵
 撮影：宮島徑
 ©YAMAGUCHI Akira, Courtesy of Mizuma Art Gallery



雪舟《四季山水図》室町時代 15世紀、石橋財団アーティゾン美術館、
 重要文化財、右から春幅、夏幅、秋幅、冬幅



ポール・セザンヌ《サント=ヴィクトワール山と
 シャトー・ノワール》1904-06年頃、
 石橋財団アーティゾン美術館

【開催概要】

展覧会名：ジャム・セッション 石橋財団コレクション×山口晃 ここへきて やむに止まれぬ サンサシオン
*展覧会タイトルを省略する場合は【山口晃 ここへきて やむに止まれぬ サンサシオン】または【ジャム・セッション 山口晃】とご記載ください。

主催：公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

会場：アーティゾン美術館 6階展示室

会期：2023年9月9日[土] - 11月19日[日]

開館時間：10:00 - 18:00 (11月3日を除く金曜日は20:00まで) *入館は閉館の30分前まで

休館日：月曜日(9月18日、10月9日は開館)、9月19日、10月10日

入館料(税込)：日時指定予約制(2023年7月7日[金]よりウェブ予約開始)

ウェブ予約チケット1,200円、窓口販売チケット1,500円、学生無料(要ウェブ予約)

*予約枠に空きがあれば、美術館窓口でもチケットをご購入いただけます。

*中学生以下の方はウェブ予約不要です。

*この料金で同時開催の展覧会を全てご覧頂けます。

担当学芸員：平間理香

同時開催：創造の現場 一映画と写真による芸術家の記録

石橋財団コレクション選 特集コーナー展示 読書する女性たち

アーティゾン美術館 〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2

Tel: 国内 050-5541-8600 海外 047-316-2772 (ハローダイヤル) www.artizon.museum

アクセス：JR 東京駅(八重洲中央口)、東京メトロ銀座線・京橋駅(6番、7番出口)、東京メトロ・銀座線/東西線/都営浅草線・日本橋駅(B1出口)から徒歩5分

【広報用図版】

1点のみ掲載の場合は1ページに掲載の図版をお使いください。

掲載時には必ずクレジットをご記載ください。また、文字載せやトリミングはご遠慮ください。

*部分図を掲載の場合は作品名の後に(部分)と入れてください。

■図版は、下記サイトからダウンロードしていただけます。

広報用画像データのダウンロードはこちら

<https://www.artpr.jp/artizon/yamaguchiakira2023>



本プレスリリースについてのお問合せ先
アーティゾン美術館 広報課 松浦・小川・宮武

*一般の方のお問合せ先は050-5541-8600 (ハローダイヤル) です。

E-mail: publicity@artizon.jp

TEL: 03-6263-0132 (広報課直通・誌面への掲載はご遠慮ください。)

〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2